



【この人たちには、いつでも見れる富士山だろうが、私にとっては千載一遇の富士山なのだ】

もう半時間もすれば、薄曇りの空は紅色（あかねいろ）に変わることだろう。
周辺の建物も、壁や窓に落陽を浴びながら、夜のとぼりが下りるのを静かに待つ。
やがて室内にも灯がとまり、暑かった都会の一日を終え、暫し清涼の夜に包まれる。
そして、明日を迎え、又日が暮れる。
こうして、繰り返される日々の営み。
富士山が、これを静かに見守る。

【補足】

多摩モノレール立川北駅構内から撮影した写真である。

この夏、東大和市（東京都）に行くことがあった。
ここで多摩モノレール線を利用したとき、遭遇した風景である。
でも、富士山にはやはり雪がなければ……………。
頂上に雪を冠する、あの富士山をいつかは撮りたいものだ。